

2016漫画大賞受賞作家が月形樺戸博物館を取材(道央地区) .....2  
 道南文化財ウェブマップを公開しました(道南ブロック) .....2  
 増毛の民話と高橋明雄先生(道北地区) .....3  
 ミュージアム建設中(日胆地区) .....3  
 平成28年度交流推進会議(道東3管内) .....4  
 平成28年度第2回研修会開催報告(網走管内) .....4

動物園の鳥インフルエンザ対策(動物園・水族館) .....5  
 平成28年度研修会を開催(学芸職員部会) .....5  
 活動報告(青少年科学館) .....6  
 開館35周年を記念し「ロダン展」開催(美術館) .....6  
 イベント情報 .....8  
 事務局からのお知らせ ..... 11



第55回北海道博物館大会(新ひだか大会)のスナップより  
 平成28年7月7日(木) 研究大会・懇親会  
 7月8日(金) エクスカーション

道央

## 2016漫画大賞受賞作家が 月形樺戸博物館を取材

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

北広島市出身の漫画家の野田サトルさんが、集英社発行の雑誌「週刊ヤングジャンプ」に「ゴールデンカムイ」を連載されているのをご存知でしょうか？

この「ゴールデンカムイ」は2014年から連載が始まり、2016年には漫画大賞を受賞した作品です。雑誌の連載だけでなく、現在は第9巻まで単行本が発刊されています。

内容は、日露戦争の兵士がある目的のために大金を欲し、かつてゴールドラッシュにわいた北海道で、アイヌが隠した膨大な埋蔵金を探す。明治末期の北海道を舞台に、収監されていた囚人に隠された埋蔵金の手掛かりを求め、アイヌの少女と日露戦争帰りの兵士が冒険する。「歴史」「狩猟」「アイヌ文化」等を漫画で表現すると言った、興味深い作品となっています。

作者の野田サトルさんは、文献や資料をよく調べており、月形の月形樺戸博物館も取材され、展示資料を丹念に調査されました。第9巻では、樺戸集治監のことが大きく取り上げられており、当館に展示している資料等が随所に描かれています。漫画の世界で歴史的な背景を織り交ぜながらのストーリーに感心させられます。

当館での取材の際に、サインをお願いしたところ



来館時に頂いたサイン色紙

快く受けてもらいました。作中に出てくるアイヌの少女「アシリパ」のイラストを描いていただき、博物館に飾らせていただいています。翌日から来館された方からは「来たんですね！」と、声をかけられるくらいに、皆さんご存知のようでうれしいです。

北海道出身の作家さんが北海道の歴史を基に描いて世に出していただいていることに感謝し、今後も応援したいと思っています。

月形樺戸博物館（月形町役場産業課商工観光係長）  
野本和宏

道南

## 道南文化財ウェブマップを 公開しました

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

道南ブロックでは、多くの人に各地にある文化財を知ってもらうとともに、実際に現地に行ってもらえるような地図の製作を模索していました。当初、平成28年3月に発行した『道南博物館マップ』の中に載せる案や、別刷りの紙媒体での発行を考えていましたが、スペースなどの制約からそれを止めて、webにて公開することとしました。そこでICT（情報通信技術）を専門とする公立はこだて未来大学に協力をお願いして、大学にはサーバー管理やシステムを構築していただき、そこに学芸員が各文化財の写真・位置・解説などを登録していく手法をとりました。現在、まだ検討する点が残っているため検索にはヒットしないようにしていますが、URLを打ち込んでいただければ閲覧可能ですので、ご覧ください。 <http://donan-museums.jp>

地図はgoogle mapを利用し、拡大縮小など自由にできます。「この文化財はどこにあるのか？」といった問い合わせは、このサイトを案内することで対応できると考えています。また各文化財をカテゴリごとに地図上にプロットできるようにしており、



文化財一覧の一部

地図上で一覧できます。

またサイトを見ただけではわかりませんが、実は学芸員が文化財を登録する際に、公開か非公開かを選べるようになっていました。例えば保護が必要な野草の群生地など、一般公開に不向きだけでも場所などはデータとして登録しておきたいものは非公開にすることで、学芸員用のデータベースとしても活用できるようになっています。

将来的には公開データはオープンデータで提供することを目指しています。オープンデータで提供することで、旅行マップの作成や文化財を利用したアプリの開発などを、やりたいと思った人が自由に情報を使って作れるようになり、より文化財の活用が進むと考えています。

八雲町郷土資料館 学芸員 大谷茂之

日胆

## ミュージアム建設中

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

伊達市では平成30年秋に開館予定の「だて歴史文化ミュージアム」の建設工事を進めています。どのようなミュージアムになるのか、少し概要をお知らせします。

伊達市には「伊達市開拓記念館」という、明治時代の開拓当時の史料・美術品を展示するための施設があります。しかし59年前に建てられた施設ですので、温度や湿度等の空調設備が一切なく、展示品や収蔵品の劣化や損傷が問題になっていました。また、展示ケースにも機能的な問題がありましたので、市民の皆さんからは博物館の建設が長い間求められていました。

そんな中、伊達市にとって必要な博物館を考える21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”が結成され、市民が望む理想の博物館の提言書が伊達市長に出されました。この流れがあったおかげで平成24年に道の駅を新築した際に、旧道の駅施設の利用問題が検討されましたが、市ではこれを解体して新たにミュージアムを建設する決定をしました。

建設を前に佐々木利和先生(北大名誉教授)を座長とする「だて歴史文化ミュージアム検討委員会」により、まず新しい博物館の基本方針がまとめられました。



新館イメージパース

基本方針では、「だて歴史文化ミュージアム」は、開拓記念館に展示する武家文化財、重要文化財に指定された考古資料や、市が所有・寄託を受けた美術品等を適切な環境で収蔵、展示すること。そして本物の文化・芸術に触れることで市民の文化度を高め、そしてその取り組みを全国に発信することを館の目的としました。

「だて歴史文化ミュージアム」は鉄筋コンクリート2階建てで、1階は事務所とレクチャールームと図書コーナーです。2階は常設展示室と企画展示室、収蔵庫からなり、この階は有料ゾーンです。規模こそ小さいミュージアムですが、伊達市内外のみならず愛される施設になるよう努力して参ります。

伊達市開拓記念館 学芸員 伊達元成

道北

## 増毛の民話と高橋明雄先生

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

地元の郷土史家として知られた高橋明雄は、昭和40年代～50年代にかけて地域の古老に聞き取り調査を行い、地元には多くの民話が伝わっていることを発見しました。彼は昭和56年にこれら留萌管内に残る民話をまとめ、「シュシュシナイの権六狸」というタイトルで出版します。現在、過疎化や核家族化が進む増毛町においてこうした民話はほとんど伝承



されていないのが現状です。けれども地元には豊かな物語性を持つ民話が存在したことをしっかりと伝えていこうという地域の有志の声を受け、教育委員会では平成23年から前述の資料を基に増毛の民話を影絵の紙芝居として作成し、5年をかけて13話を完成させました。また、同時に町内有志により「増毛の民話伝承会」が結成され、平成23年から影絵紙芝居の上演・普及活動が続けられています。

高橋明雄は増毛の民話に共通しているのは「不幸を未然に防ぐ」「自然の力への畏れ」「神仏へ頼る」「訪れた幸せを逃がさぬよう努める」といったメッセージが込められており、ここには当時の人々が子孫に言い残したいと強く願った思いが表れているようだ、と述べています。

増毛町教育委員会地域学習課文化振興係 小野卓也

網走

## 平成28年度網走管内博物館 連絡協議会第2回研修会開催報告

網走管内博物館等連絡協議会 NEWS

網走管内博物館連絡協議会では、平成28年10月1日、美幌町的美幌博物館を会場に今年度2回目となる研修会を開催しました。

内容は、同博物館において開催中の特別展「びほろ昔ばなし」の記念講演会で、「北海道昔ばなし～ハッカ釜のナゾにせまる！」と題し、北海道博物館の会田理人学芸員に美幌のハッカ製造とハッカ釜について解説していただきました。

北見地方のハッカ(薄荷)栽培は明治29年ごろ始まりました。美幌では明治36年に樋口仁平、曾山幸内の両名がハッカの主産地である湧別で種苗を買い付け、木禽原野で試作を行いました。その後、昭和13年には最高の369haを作付けしています。

ハッカの製造工程で、ハッカ成分を抽出する蒸留の際に必要なのが、蒸気を発生させる(お湯を沸かす)ための大きな鉄釜「ハッカ釜」です。

ハッカ製造に欠かせない「ハッカ釜」ですが、はたして何処で作られたものなのでしょうか？謎を探るヒントは鯨を肥料に加工する時に使う「ニシン釜」にありました。そして、ある「ニシン釜」に記された「高岡カネソウ(宗)特製四六」の銘が手がかりとなりました。「高岡」は富山県高岡地方、「カネソウ」はこの



講演中の会田理人学芸員

鉄釜を作った製造元、「四六」は鉄釜の大きさ四尺六寸を意味します。

会田学芸員は鋳物の町、富山県高岡市で調査を行い、高岡地方が「ニシン釜」のふるさとであり、「カネソウ」は旧富田宗治郎鋳造所であることを突き止めました。また、同鋳造所資料の帳簿による調査では、明治から昭和期を通してニシン釜やハッカ釜は北海道向けの主力商品であり、ハッカの産地ではニシン釜をハッカ釜と同じ目的(湯沸かし用)で購入していたことも分かりました。

調査で謎を解き明かしていく会田学芸員のお話には引き込まれました。一つの資料を追求することの大切さを改めて感じた研修会でした。

紋別市立博物館 業務係長 小林健一

道東

## 平成28年度道東3管内博物館 施設等連絡協議会交流推進会議

道東3管内博物館等連絡協議会 NEWS

道東地域と北方四島は、歴史的にも自然史分野においても深いつながりがあります。その自然や歴史を知ることは、道東を中心とした北海道の自然や歴史をテーマにしている加盟館園の活動に、大きく寄与しています。これまで四島で自然や歴史の調査をした学芸員もいることから、今回のテーマを北方四島の自然と歴史ということで開催しました。尚、開

催日程と内容については、以下のとおりです。

1. 主催 道東3管内博物館施設等連絡協議会
2. 後援 北海道博物館協会、標茶町教育委員会
3. 会期 平成28年10月20日(木)～21日(金)
4. 会場 くしろ湿原パーク憩いの家かや沼
5. 日程・内容

[1日目10月20日午後1時半～5時]

基調講演

演題 人類活動史からみた千島列島と北方四島

講師 北海道博物館学芸主幹 右代啓視氏

事例発表「北方四島の自然と歴史」

北海道立北方四島交流センター館長 佐田正蔵氏  
根室市歴史と自然の資料館 外山雅大氏  
中標津町郷土館 村田一貴氏  
釧路市立博物館 加藤ゆき恵氏

[2日目10月21日午前9時～12時]

巡検 標茶町多和平、標茶高校(軍馬補充部跡)、標茶町郷土館

交流推進会議では、ビザなし交流で訪れた北方四島での調査結果を共有しようという目的で、植物や鳥の生態、島の歴史をテーマにそれぞれ報告していただきました。二日目の巡検では、標茶町郷土館の坪岡始氏に解説をお願いしました。10月20日～21日の2日間に渡り、標茶町で開催した交流推進会議には、11館21人の方々に参加していただきました。



2日目巡検の様子

釧路市立博物館 学芸主幹 山代淳一

## 動水

### 動物園の鳥インフルエンザ対策

動物園・水族館連絡協議会 NEWS

現在、日本全国で発生している高病原性鳥インフルエンザは家禽であるニワトリやアヒル以外に、野鳥ではガン・カモ類をはじめ、猛禽類、ツル類など多くの鳥類が感染する病気です。十勝管内の養鶏場でも12月に発生し、感染拡大を防止するために多くのニワトリの処分と労力を費やしました。動物園、水族館も例外ではなく、今回、動物園では初めて秋田県と愛知県の動物園で発生し、一時休園の措置がとられました。

おびひろ動物園の対策としては来園者の皆さまが入園する際に消毒マットによる靴底の消毒の徹底。鳥類とのふれあい事業の中止やふれあいの防止。鳥類展示施設の観覧中止で外部からのウイルスの持ち込みを防いでいます。

動物園は緑ヶ丘公園の一角に位置していますので、野鳥が生息していく環境に適しています。多くの野鳥が飛来し自然の豊かさを実感できますが鳥類展示施設は展示効果を高めるために檻の網目は大きくスズメなどの小型鳥類は施設の中に入り込んでしまいます。野鳥と飼育鳥類が接触することで感染する危

険性が高まります。野鳥の侵入を防ぐには鳥類施設に防鳥ネットを張りめぐらせるしか方法はありません。オオワシやオオタカの施設は自由に飛べるように大きな施設となっていますので、ネット設置も多くの費用と手間がかかります。きびしい財政状況のなかですが飼育鳥類を守るために施設工事を実施しました。

まだまだ万全を期しているとは言いきれませんが、国内における鳥インフルエンザの感染がこれ以上に広がらずに終息することを願うばかりです。



ワシタカ施設の工事

おびひろ動物園 園長 柚原和敏

## 学芸

### 平成28年度 学芸職員部会 研修会を開催

学芸職員部会 NEWS

平成28年度学芸職員部会研修会を9月29日・30日、帯広百年記念館を会場に開催しました。

1日目は教育分野技術研修「博物館と学校がつくる

地域学習」を行い、士別市立博物館、釧路市立博物館、帯広百年記念館の学芸員からトランクキットなどのパッケージを用いた博物館の学校教育連携プログラムについて事例報告がありました。また、帯広市内の小学校教諭をお招きし、学校現場から博物館に望むことについて報告いただきました。その後、グループディスカッションを行い、集約した意見や課題に

について議論しました。学校側は積極的に博物館等を活用するよう配慮しているものの、うまく連携できない現状や問題点を知り、学校と博物館が連携を図りながらどのように地域学習を行っていくのか、解決策や方法を探る機会となりました。「先生の口コミを大切に」「小規模の学校から始める」など連携を図る際のアイデアが挙げられました。

2日目は、講師に石工の白石茂雄氏をお招きし、「石碾き白の再生」をテーマに実技研修を行いました。まず、石臼とは何か、構造や使用法について講義が行われ、その後、実際に道具を用いて溝を深くする工程などを体験しました。講義終了後は、石臼碾きしたソバ粉を、芽室町そば研究会のみなさんに打っていただき試食し、その日碾いたコーヒーの試飲も行いました。多くの博物館が石臼を収蔵しているものの、活用できていないのが現状です。石碾き白への知識を深め、それを再生し使用できる状態にする



実技研修「石碾き白の再生」のようす

ことは、展示や体験事業などでの活用が期待でき、後世に石臼の歴史を残すことにつながると感じました。

両日ともに約60名の参加があり活発な意見交換が行われ、平成28年度研修会が終了しました。

帯広百年記念館 学芸員 伊藤彩子

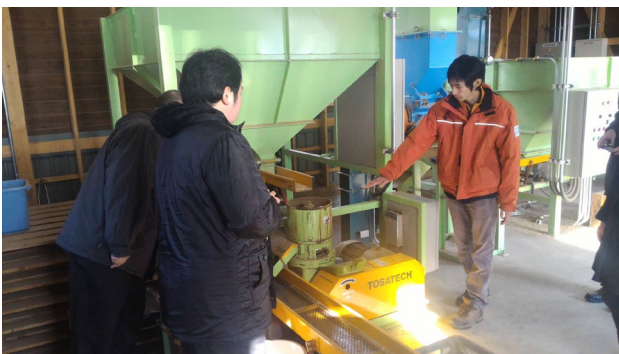
## 科学

### 北海道青少年科学館 連絡協議会活動報告

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

平成28年11月17日(木)、18日(金)の2日間、第52回北海道科学館連絡協議会(以下、道科協という)職員研修会が帯広市児童会館および帯広の森・はぐくーむで行われ、道科協に加盟している道内14の科学館施設から合計14名の職員が参加しました。

研修会初日は、まず帯広市児童会館の取り組み事例の紹介がありました。同館は道内の科学館施設の中で唯一宿泊設備を併設する施設で、帯広市内だけでなく十勝館内の多くの小学生が宿泊学習として同



研修2日目 はぐくーむ施設見学の模様

館を訪れています。宿泊学習に訪れた子どもたちは、1泊2日の日程の中で展示物の観覧、実験教室、天体観望など、科学の要素が詰まったプログラムを体験します。これらは、学校の授業でも役立つように構成されており、宿泊学習と理科の学習の両側面を有した事業となっているとのことでした。

研修2日目は、帯広市内の「帯広の森・はぐくーむ」という施設を見学しました。帯広の森は、快適な都市環境を実現するために整備された都市林であり、この森の育成管理の拠点が「はぐくーむ」という施設となります。

ここでは、森づくりや自然とかかわる体験プログラムを通じて、学校には無い自然素材を取り入れた環境学習を行うことができます。その中でも、帯広の森の間伐材を材料とした木材ペレットづくりの見学は大変興味深いものでした。実際に施設内の暖房は、このペレットも使用されているそうです。

こういった地域に密着した施設を、地元の子どものために積極的に活用してもらうことが、科学への興味や自然の大切さだけでなく、地元への愛着や郷土を誇りに思う気持ちを涵養することにつながるのではと感じた研修会でした。

札幌市青少年科学館 学芸課 荒明慎久

## 美術

### 開館35周年を記念し「ロダン展」開催 本郷新記念札幌彫刻美術館

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

戦後日本を代表する彫刻家・本郷新を顕彰する札

幌彫刻美術館が開館から35周年を経、その記念として「ロダン展」が去る平成28年7月9日から9月25日まで開催されました。4,500人が来場してこれまでにない大きな成果をあげるとともに、その一方で美術館設置の原点を顧みる契機ともなり、博物館活

動とその目的の再構築という次の段階に至る年度末を迎えています。

当館は昭和56年6月、札幌生まれの本郷新の偉業を称え、市内宮の森の山腹にオープンしました。ふるさと札幌をこよなく愛した本郷新は晩年近く、この地にアトリエとギャラリーを兼ねた住宅を建て、ここで作品の構想を練り制作にいそしみました。同時に、自作の展示と彫刻を中心とした美術文化の振興のため彫刻美術館の設立準備に奔走します。が、肺ガンのため東京の自宅で倒れ、闘病生活も空しく55年2月74歳で死去。

しかし、故人の遺志を受け継いだ遺族や関係者の尽力、札幌市と北海道の全面支援により、その思い出多い建物と作品の寄贈、隣接地への新美術館の建設、運営主体となる財団法人の設立が進み、1年後には「札幌彫刻美術館」が開館しました。当初の所蔵作品は358点でした。

美術館はその後、本郷新を回顧する常設展や特別展ばかりでなく、「北の彫刻展」「ビーゲラン彫刻展」「アフリカ彫刻展」など多彩な展覧会を開催。さらに

本郷新賞の実施、講演会、コンサート、実技講座の開催など活発に事業を展開してきました。

平成19年からは旧財団を統合した財団法人札幌市芸術文化財団の運営となり、館の名称を「本郷新記念札幌彫刻美術館」と改めました。

35周年記念の「ロダン展」は、代表作「考える人」など22点の作品を展示、このフランスの彫刻家のエッセンスを紹介する充実した内容となりました。会期中には作品に触れて鑑賞する「ロダンにタッチ！」などの普及事業も開催、開館以来最大規模の企画展が実現しました。

しかし、ロダンという史上最も著名な彫刻家を掲げ広報活動に注力したにも関わらず、来館者数の劇的な改善には結びつかず、今後の館運営には厳しさが増す状況になったともいえます。彫刻専門の美術館として特色をいかした事業展開を再構築し、社会貢献の姿が市民に理解されるよう活動の見直しを進めていく予定です。

本郷新記念札幌彫刻美術館 館長 寺嶋弘道

# イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 平成28年11月～平成29年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

## 石狩

### ■北広島市エコミュージアムセンター 知新の駅...011-373-0188

8/13～11/20	企画展「祝いと記念の品々」
12/23～1/9	冬休み子ども特別展「帰ってきたマンモス」
2/4～5/9	企画展「明治・大正時代の広島村をたずねて」
3月上旬	観察会「カンジキDE自然観察」

### ■北海道立近代美術館 .....011-644-6881

10/29～11/8	特別展「第10回記念 北海道現代具象展」
11/23～4/9	近美コレクション「ワンダー☆ミュージアム2017」、「冬から春の名品選—デューラーとレンブラントの版画他」、「この一点を見てほしい。」
11/23～12/18	特別展「浮世絵師・歌川国貞展」
1/4～3/20	特別展「片岡球子 本画とスケッチで探る画業のひみつ」

### ■いしかり風の丘資料館 .....0133-62-3711

9/21～11/23	テーマ展「石狩紅葉山49号遺跡の舟と櫂」
11/3	講演会「縄文のくらしと石器—石狩紅葉山49号遺跡出土の石器使用痕分析からわかること—」
12/17	体験講座「フライドチキン骨格標本をつくる」
1/28、2/4	連続講座「石狩大学博物館学 全2回、4科目」
3/5	野外講座「石狩ビーチコーマーズ/冬の海辺の漂着物」

### ■北海道大学総合博物館 .....011-706-2658

11/4～1/9	企画展「坂本直行生誕110年記念企画展示 直行さんのスケッチブック展」
11/5	バイオメテックス市民セミナー「糸の匠、すごもりはだに」
11/8～3/5	企画展「—はじめての人工雪—誕生80年記念企画:中谷宇吉郎展」
11/12	土曜市民セミナー「子どもの貧困から公正な社会を考える」
12/3	バイオメテックス市民セミナー「樹木細胞壁の形成過程を模倣したもの作り」
1/7	バイオメテックス市民セミナー「サケ—謎に満ちた生命の旅」
1/31～4/2	企画展「北大古生物の巨人たち」
2/4	バイオメテックス市民セミナー「昆虫の学習と微小脳:ヒトの脳のしくみとは違うのか?」
2/11	土曜市民セミナー「はじけるダイズ:収穫量を増やす莢の仕組み」
3/4	バイオメテックス市民セミナー「ダニの話:形態、生態、多様性」

### ■北海道博物館 .....011-898-0466

11/3	特別イベント「アイヌ音楽ライブ」
11/3	講演会 文化の日講演会「漂着するクジラを追って」

11/6	チャレンが講座「アイヌ語講座②アイヌの物語に親しもう」
11/13	チャレンが講座「総合展示『アイヌ文化の世界』を語る①日本の博物館所蔵の樺太(サハリン)アイヌの金属口琴」
11/20	チャレンが講座「文書のなかの『漂着』をたどる」
11/27	チャレンが講座「総合展示『アイヌ文化の世界』を語る②アイヌの儀礼用の冠—地域差と変化を探る」
12/3・17	チャレンが講座「古文書講座②はじめての古文書・入門編」(全2回)
12/4	フォーラム「野幌森林公園の今—10年間の動植物調査でわかったこと」
12/11	チャレンが講座「総合展示『アイヌ文化の世界』を語る③『幻の建設』に込めた意志—パチラー八重子らによる『アイヌウタリ—中等学校建設』活動—」
12/18	チャレンがワークショップ「博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり」
1/7	チャレンが子どもクラブ「冬休みスペシャル①稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦!」
1/8・22、2/5	チャレンが講座「古文書講座③はじめての古文書・続編」(全3回)
1/14	チャレンが子どもクラブ「冬休みスペシャル②いのりのしるし? 絵馬づくりにチャレンジ」
1/21	チャレンが子どもクラブ「冬休みスペシャル③アイヌ語であそぼう!」
2/18	チャレンがワークショップ「自然観察会⑤動物の足跡を追いかけてよう」
2/26、3/12・26	チャレンが講座「古文書講座④古文書に親しむ」(全3回)

## 後志

### ■岩内町郷土館 .....0135-62-8020

9/17～11/20	第4回企画展「司法誕生140年記念特別企画『明治期の岩内の司法と行政』」
10/1～ 毎土曜	DVD上演会「『岩内ニュース』昭和40～60年代」
11/6	コンサート「『郷土館いぐべコンサート』町内音楽家による演奏会」
11/19	DVD上演会「『最後の北洋さけます出漁』『日本海延縄切断事件』」

### ■小樽市総合博物館 .....0134-33-2523

10/20～12/11	企画展「銀行の街小樽—銀行・無尽と小樽の人々—」
11/3	文化の日記念講演「銀行の街、小樽—大正期の人々の暮らしと日本銀行—」
11/5・6・12・13	「屋外展示車両シートかけ体験」
11/12	ギャラリートーク「オタル・サッポロの名を持つ生き物たち」
11/23	ミュージアムラウンジ「かんたんプログラミング」
11月の土・日・祝	チャレンジラボ「UVチェックビーズでキーホルダー作り」



2017.1.31

道博協ニュース 第118号

12/3・4	プラネタリウム「特別投影『宵の明星・金星』、星空観望会「夕空に金星と月を見よう!」
12/14～3/13	プラネタリウム「冬の番組『うらしまたろう星ものがたり』」
12/16	ミュージアムラウンジ「スバル360パート2」
12/25	体験「はくぶつかんの『おもちつき』」
12/23	企画展関連事業「ギャラリートーク『兵庫コレクション撮影のポイントの今』」
12/23～3/26	企画展「路地裏の貌(かお) 1970年代と2016年の小樽」
12/24・25・26	体験「大型プリンターを利用したパソコンでカレンダー作り」
12月の土・日・祝	チャレンジラボ「まつぼっくりでクリスマスツリー作り」
1/9	体験科学実験教室「鏡はどうやってできる?自分で鏡を作ってみよう」

### ■余市水産博物館.....0135-22-6187

11/20	余市町歴史探訪講座「そもそも運上家ってなんだろう」
-------	---------------------------

## 渡島

### ■北海道立函館美術館.....0138-56-6311

11/12、12/10	ギャラリー・ツアー「書の見かた、再発見!!」
11/3	講座「アーティスト・トーク」
11/5	ワークショップ「書道パフォーマンスを観て、体験するワークショップ」
11/26	マジカル・ワークショップ「墨の世界に親しもう!」
2/4～3/26	特別展「開館30周年 ハコビ・グランドコレクション【文字と記号】セレクション」

### ■七飯町歴史館.....0138-66-2181

12/7・1/11・2/1・3/1	講座「夜の博物館『ナナエガク』」
3/12	自然観察会「冬の探鳥会」

## 胆振

### ■室蘭市民俗資料館.....0143-59-4922

11/23	とんてん館寺子屋教室「干支凧づくり」体験学習会
12/11	とんてん館寺子屋教室「しめ縄づくり」体験学習会
12/18	とんてん館寺子屋教室「石臼もちつき」体験学習会

## 上川

### ■北海道立旭川美術館.....0166-25-2577

10/27～3/31	常設展「木の造形セレクションII」
10/27～12/18	特別展「球子のひみつー本画とスケッチで探る片岡球子の画業」
1/17～4/9	特別所蔵品展「色と形のポリフォニー平面の魅力」
11/12、12/3	講座「球子のひみつースケッチ調査から」

### ■士別市立博物館.....0165-22-3320

9/25～11/27	特別企画展「士別が海だったころ～白亜紀の海とエゾ層群の動植物化石～」
11/3	北海道文化財保護協会子どもの文化財愛護活動推進事業 講座「地域の文化財に触れてみよう～タロ・ジロ、南極犬物語と簡単土偶づくり体験」
11/6	トヨタ自動車株式会社共催事業 講座「科学のびっくり箱!なぜなにレクチャー～もけいひこうき～」
11/12	講座「米づくり体験⑤味覚」
11/19	講座「Jr.博物館クラブ④ホネホネくらぶ」
11/26	講座「亜麻とイラクサでコースターづくり～縄文の布づくりに挑戦!①縄文の糸づくり」
12/3	講座「亜麻とイラクサでコースターづくり～縄文の布づくりに挑戦!②木枠織機を使った簡単機織り体験」
12/10	講座「Jr.博物館クラブ⑤科学実験」
1/9	講座「士別サイエンスフェスティバル」
1/28	講座「米づくり体験⑥昔の手仕事」
1/29	講座「Jr.博物館クラブ⑥雪の結晶をつくってみよう!～雪と氷の実験教室～」
1/14～2/4	巡回展「冬の鉄路～豪雪地帯で活躍した機関車」
2/5～3/5	テーマ展「桃の節句～ひな人形展」
2/19	夜間開館「雪あかりミュージアム」
2/25	「冬の自然観察会」
3/5	講座「Jr.博物館クラブ⑦スノーシューで自然散策」
3/11	講座「天塩川流域の考古学」

## 網走

### ■北海道立北方民族博物館.....0152-45-3888

11/12	講習会「はじめてのアイヌ刺繍」
11/19	講習会「白樺樹皮で作るバスケット」
11/26	はくぶつかんクラブ「バスケット作り」
12/3～12/18	ロビー展「東京農業大学学術情報課程実習成果展示」
12/10	講座「海外所蔵写真で見る明治時代のオホーツク」
12/16・17	講習会「とんぼ玉作り」
1/7～1/26	ロビー展オホーツクシリーズ⑩「北の風景から」
1/7	はくぶつかんクラブ「ステンシルで北方デザインのバッグづくり」
1/14	はくぶつかんクラブ「ビーズ織り」
1/21	講習会「はじめてのウイルトタ刺繍」
1/28	はくぶつかんクラブ「あつあつの蒸し餃子・モンゴルの『ポーズ』作り」
2/4～4/2	企画展「ボレアルフォレスト(北米針葉樹林)の狩猟民 アサバスカ・インディアンの暮らし」
2/18	講座「サハリンの石油・天然ガス開発と先住民」
2月中旬	講座「網走湖と世界の氷下漁」
3/4	はくぶつかんクラブ「フェルトで作るアザラシサンキャッチャー」
3/19	講座「ユーコンの先住民カスカの狩猟文化と世界観」
3/25	館長講座「北方民族から学ぶ」

<b>■北網圏北見文化センター.....0157-23-6742</b>	
8/5～2月上旬	企画展示「大昔の北見第32回『新発見の遺跡紹介』」
12/10・11	企画展示「第7回 北見市高校生美術展」
12/17～1/29	企画展示「科学特別展『星空ウォーク』美術収蔵作品展(同時開催)」

<b>■紋別市立博物館.....0158-23-4236</b>	
11/12	番屋講座「ぶんぶんぜみを作ろう!」
11/19～12/4	「北海道写真協会紋別支部写真展」
12/3	「博物館そばづくり体験講座」
12/10	番屋講座「昔の遊びを皆で体験しよう!」
12/10～18	私の博物館コレクション「坂野徳三郎コレクション」
1/7	番屋講座「百人一首といはカルタ」
1/12	子ども考古学体験「勾玉作り体験」
2/4	番屋講座「お雛さまを作ろう!」
2/20	第32回北方圏国際シンポジウム市民公開講座 第23回氷海の民シンポジウム
3/11	番屋講座「昔なつかし街頭紙芝居と飴細工」
3/11～26	「第13回博物館サークル活動作品展」

<b>■博物館 網走監獄.....0125-45-2411</b>	
11/20	農園体験ワークショップ⑦ いなぎび餅作り
12/18	体験講座「正月準備」
1/7	体験講座「七草」・「お正月 絵馬作り」、冬休み体験講座「干支の水引作り」
1/11	体験講座「鏡開き」
2/3	体験講座「節分」
2/26	体験講座「折雛作り」
3/3	体験講座「ひな祭り」
3/5	友の会事業「友の会学習会」

<b>■網走市立郷土博物館.....0152-43-3090</b>	
12/1～2/28	企画展「網走の昭和の歩み展」

## 十勝

<b>■北海道立帯広美術館.....0155-22-6963</b>	
10/22～11/27	巡回展「国立美術館・煌めく名作たち」
11/12・13	ワークショップ「いきなり!大人の油絵入門」
12/10～3/23	所蔵品展「グラフィック・デザインの100年」
12/17	ワークショップ「オビビ・キッズ・アートフェスタ」
2/18・19	講座「ポスターの美術と技術」

<b>■帯広百年記念館.....0155-24-5352</b>	
10/28～11/13	企画展「十勝の美術作家II『中村俊白の世界』」
11/8～27	ロビー展「昭和の遊び道具たち」
11/18～12/4	収蔵作品展「版画の世界」
11/19	博物館講座「十勝石ヒストリー」
12/17	博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
12/23	体験教室「まが玉つくり教室」
1/14～2/5	ロビー展「冬の行事あれこれ写真展」
1/20～2/5	美術展「第35回郷土美術展」

1/21	博物館講座「大昔のとかち」
2/10～3/5	ロビー展「ひな人形展」
2/11～3/5	ロビー展「楽しくデッサン教室作品展」
2/18	博物館講座「アラスカの先住民を訪ねて」
3/10～26	企画展「新着資料展」
3/11	博物館講座「学芸員の仕事～学芸活動成果発表会」

## 釧路

<b>■釧路市子ども遊学館.....0154-32-0122</b>	
11/3	企画展「サイエンス屋台村」
11/12、1/21、3/19	天体観測会「星空キャラバン」
11/26	クリスマスツリー点灯式
1/4～16	冬休みイベント「音フェス!～しる・みる・つくる音ステージ～」
1/8	ジオ・フェスティバル in Kushiro
1/8、2/5	太陽観測会「太陽の素顔を探れ!」
2/18・19	企画展「とりかえっこ」
2/25・26	ワークショップ「ひなまつりスペシャル」
3/25～4/5	企画展「春休みイベント」

<b>■道立釧路芸術館.....0154-23-2381</b>	
10/21～11/9	企画展「森川ヒロシ彫刻展 記憶から心象へ」
11/5	ミュージアムコンサート2016「音楽の贈りもの」
11/18～2/5	企画展「画家たちの夢、パリ 北海道立近代美術館コレクションより」
11/25～12/16	企画展「<Path-Art>の仲間たち」
11/25～12/16	ワークショップ「線で繋がる?お絵かきアート@釧路芸術館」
12/25～1/15	ワークショップ 冬のキッズ・アトリエ
11/26	アートシネマ館「エル・スール」
11/26、12/10・24、1/7・21、2/4	「画家たちの夢、パリ」ギャラリー・トーク
12/3	企画展「<Path-Art>の仲間たち」アーティスト・トーク
12/10・11	クリスマスイベント「クリスタル☆クリスマス」
12/24	アートシネマ館「白夜のタンゴ」
1/21	アートシネマ館「ガスパールー君と過ごした季節(とき)」
2/11～3/29	企画展「絵画と写真「光」をみつめて・・・ 釧路芸術館コレクション選」
2/25	アートシネマ館「ミツバチのささやき」
3/8・12・15	大人の家庭科&お気楽アート教室

## 事務局からのおしらせ

### ■道博協ニュースにつきまして

まず、本号の発行が大幅に遅れましたこととお詫び申し上げます。

『道博協ニュース』は、これまでのオフセット印刷による印刷物としての刊行から、本号より事務局内での編集によるPDFでの刊行に変わりました。初の試みであり、至らぬ点があるかと存じますが、ご寛恕いただければ幸いです。前より読みづらなど、何かお気づきの点がございましたら事務局までお寄せください。よりよい誌面になるようご協力をお願いいたします。

### ■第3回役員会の議事内容につきまして

去る11月9日(水)、平成28年度第3回役員会が開催されました。

主な議事内容は、平成29年度の大会およびMM研修会(下記参照)、道博協表彰について。加えて、第55回大会の総会時に会員より提案があった「大会の午前の部(総会・特別報告)への非会員の参加を認めるべき」との意見について、議論を行いました。これに関しては、特にここ数年団体会員の退会例が見られることを踏まえ、会員であることのアドバンテージに考慮する必要があることと、一般市民により広く普及するというのも道博協の使命であることという相反する点があり、さまざまな意見が出ました。議論の結果、以下の方針となりました。

- ・ 総会・研究大会とも非会員の参加は認めるが、事前申込の受付はしない。
- ・ 非会員は総会の議決権がないため、オブザーバー参加とする(総会時には別に傍聴席を設ける必要がある)。
- ・ 座席は会員優先のため、会場の広さによっては非会員は立ち見になる可能性もある。
- ・ 非会員は、参加料は徴収しないが、大会資料は配布せず、懇親会・エクスカージョンの参加は認めない。

開催館ごとの個別の事情や会場の物理的な制約もあるため、実際の運用は大会ごとに変化することが予想されます。会員優先を原則にしつつ、非会員に対しても臨機応変に対応しようということを確認しました。

### ■平成29年度の事業予定につきまして

平成29年度の北海道博物館大会およびミュージアム・マネジメント研修会につきましては、下記のとおり決まりました。詳細な日程・内容等につきましては、後日改めておしらせいたします。

#### 第56回北海道博物館大会

- ・ 日程：7月6日(木)～7日(金)
- ・ 会場：帯広百年記念館(帯広市)
- ・ エクスカージョン：帯広百年記念館、北海道立帯広美術館、おびひろ動物園、帯広市児童会館(予定)

#### 平成29年度ミュージアム・マネジメント研修会

- ・ 日程：10月中旬(予定)
- ・ 会場：羅臼小学校(羅臼町)

### ■会費納入のお願い

当協会の活動は、会員の皆様の負担金(会費)で運営されています。年会費は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。以下の口座までお願いいたします。(振込手数料はご負担下さいますようお願いいたします。)

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店(普)0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

または【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

### ■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp>

当協会と加盟博物館園の情報ならびに各館園の連携・協力関係を深めるために、主に博物館関係者を閲覧対象として、博物館大会の案内、ニュースの発行や公募・助成情報などを掲載しています。

### ■学芸職員部会ホームページ「集まれ!北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp>

学芸員が所属する博物館園ならびに個人の活動情報・研究成果等を発信し、広く各館園の利用促進と学芸活動の理解を図るための普及と広報のHPです。「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」をテーマにさまざまな学芸員が記事を投稿する「コラムリレー」、WEBサイトのほか、Facebook ページ、Twitter アカウントも開設しています。